## 弾丸の5倍速で至近距離通過

26年の「トリフネ」観測

ミッションの次のヤマ場は、 2026年7月の小惑星「ト 探査機「はやぶさ2」拡張

弾丸の約5倍に相当。1きも 〇〇〇き)で、ライフル銃の 速度は秒速5き(時速1万8 リフネ」の接近通過(フライ ハイ)観測だ。通過時の相対

の軌道を周回する小惑星で、 直径約500以で細長い形 状。初代のはやぶさが訪れた イトカワ」と同様、岩石質の小

近くで撮影するため、探査機 話の「天鳥船」に由来する名発見され、公募により日本神 称が今年5月に付けられた。 衝突を避けつつ、なるべく

今回のフライバイでははやぶ

御が求められる。

トリフネは地球と火星の間

速で通過するため、精密な制 離れていない至近距離を超高

思星と考えられている。<br />
01年に 測せざるを得ない。そこで、 10時間以上前の状況を基に予 とトリフネとの距離や速度に 時間がかかるため最接近から さ2に送っていたが、通信に 地上で計算した結果をはやぶ 測する必要がある。従来は、 基づいて、軌道を調整するエ ンジンの噴射量を高精度で予

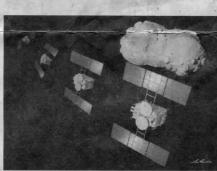
> ーが、最接近の約10分前まで さ2に搭載したコンピュータ で、誤差を最小限にする手法 のデータを基に計算すること

> > が検討されている。

最接近前後の撮影では、超

をできるだけ抑えるためシャ 高速での擦れ違いによるぶれ

ッタースピードを100分の 1秒単位まで短くする。 この



る予定だ。

カメラなどの機器も総動員す の観測時にも活躍した赤外線 ほか、小惑星「りゅうぐう」

26年7月に予定している小 探査機「はやぶさ2」が20 惑星「トリフネ」の通過観測 XA提供、©池下章裕氏) (フライバイ)想像図(JA